

進めよう、広げよう！！

「思考し、表現する力」を高める

実践モデルプログラムを

活用した授業改善



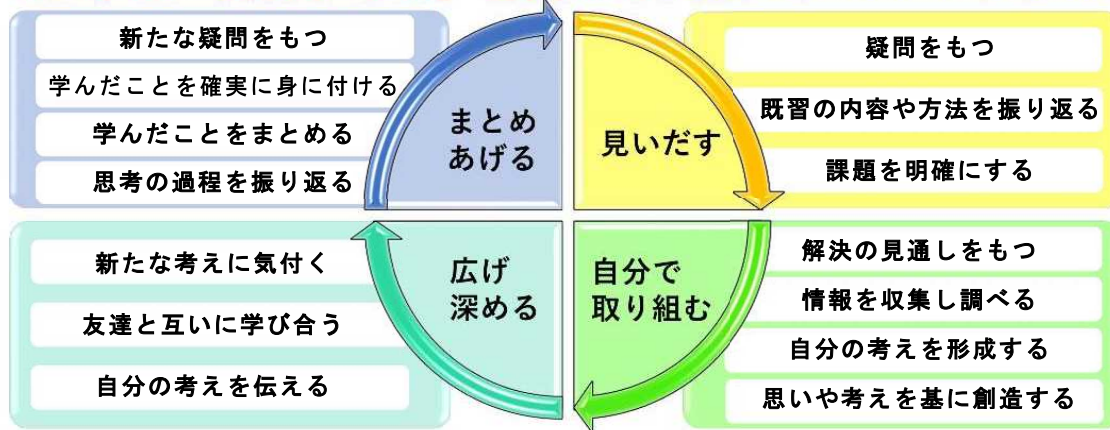
千葉県教育委員会



check

千葉県マスコットキャラクター
「チーバくん」

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



学習指導要領においては、各教科の指導に当たって、児童生徒に育成すべき資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められます。

千葉県教育委員会は、「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の内容に「主体的・対話的で深い学び」の視点を加えることで、授業改善の推進を図ることといたしました。

本プログラムは「モデル」であり、自校の学習指導過程と照らし合わせるなど、授業改善を行うための参考資料として活用してください。

千葉県の授業改善「キーワード」

「自分の言葉で学習のまとめを書く」



1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について

児童生徒の資質・能力（右図参照）の育成を目指した授業改善の取組は、これまでも多くの実践が重ねられています。「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」には、本実践モデルプログラムの学習過程の中でも、「見いだす」（見通し）と「まとめあげる」（振り返り）が重要です。

これまでの学校教育の蓄積を生かし、各教科等における優れた授業に共通し、かつ普遍的な要素である「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善を図ることが大切です。

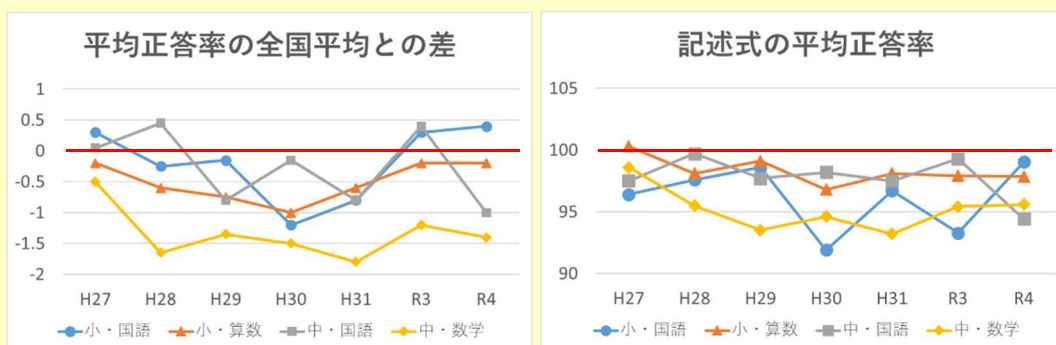


2 千葉県の児童生徒の学力に関する課題について

全国学力・学習状況調査の過去数年の結果を見ると、全国と比べた本県の児童生徒及び学校の実態として、以下のような課題がありました。

【教科に関する調査から】

- ▽小学校国語、算数、理科の平均正答率は全国平均と同等の状況である。中学校国語、数学、理科については、全国平均を下回っている状況である。
- ▽どの教科においても「記述式」の正答率が、全国平均と比べて低い傾向にある。（特に無解答率が高いことが課題）



【児童生徒質問紙調査から】

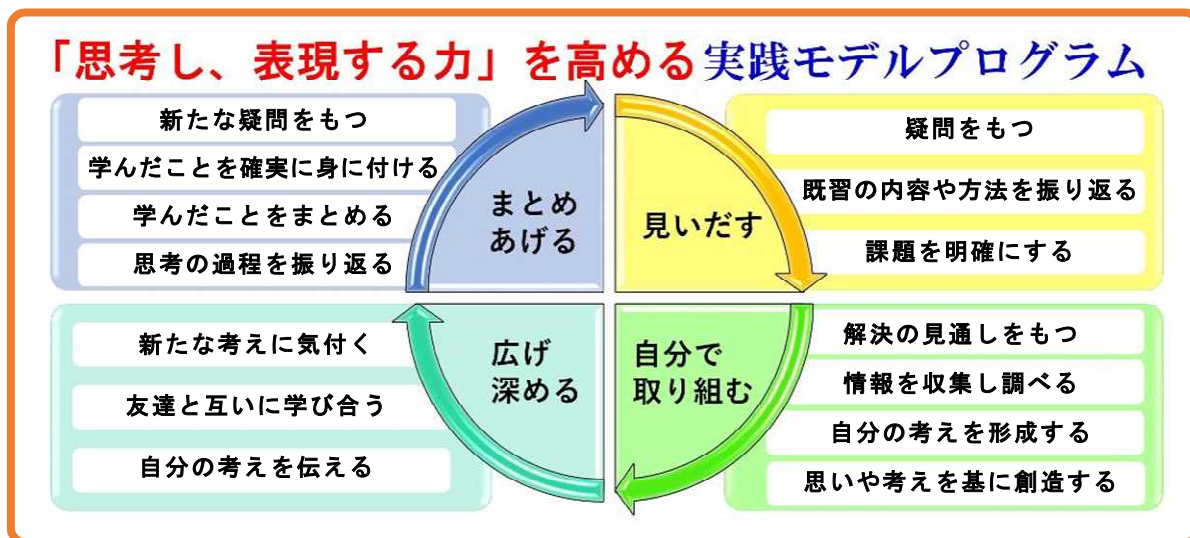
- ▽「学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、児童生徒ともに肯定的な回答の増加が見られたが、全国と比較するとやや低い。
- ▽「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」について、児童生徒ともに肯定的な回答の減少が見られ、全国と比較するとやや低い。
- ▽「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」について、児童生徒ともに肯定的な回答が全国と比較するとやや低い。

【学校質問紙調査から】

- ▽「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」については、小学校中学校ともに肯定的な回答が増加しているが、全国と比較するとやや低い。

児童生徒の実態を学校全体で共有し、「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」をより一層活用し、全ての教職員で授業改善に取り組むことが大切です。

3 実践モデルプログラムの四つの過程



まとめあげる

思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる過程です。「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすか考えることで、学んだことを確実に身に付けるとともに、新たな疑問をもち、次の学習への更なる意欲や見通しにつなげる過程です。

見いだす

今までの学習内容や提示された資料等を基に疑問をもち、本単元（本時等）で解決していく課題を明確にする過程です。また、「これからの学習がどのような意味をもち、何を目指しているものなのか」等を意識しつつ、主体的に学習に取り組もうとする過程です。

広げ深める

「見方・考え方」を働かせながら自分の考えを伝え、友達のことを聞いて疑問点を問い直すなど、互いに学び合うことを通して、多様な考えを理解する過程です。また、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新たな考えに気付いたりすることを通して、より質の高い学びとする過程です。

自分で取り組む

解決の見通しをもち、自分で考え、粘り強く課題に取り組む過程です。また、「見方・考え方」を働かせながら、収集した情報を調べたり、自分の考えを形成して文章や言葉、図、式等で表現したり、自分の思いや考えを基に作品等を創造したりする過程です。

※「見方・考え方」とは、「深い学び」の鍵となるものであり、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という、教科等ならではの物事を捉える視点や考え方のことであり、教科等を学ぶ意義の中核をなすものです。

「実践モデルプログラム」は、毎時間その全てを行うことを推奨するものではありません。毎時間全てを行うと、かえって形式的な授業となってしまう可能性があります。1 単位時間で行う場合もあれば、複数時間で行う場合もあり、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した上で行います。

大切なことは、単元計画や授業計画に意図的・計画的に「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」を位置付けることです。

4 実践モデルプログラムの活用について

授業を実践する前に、まず、資質・能力を身に付けた児童生徒の具体的な姿を描くことが大切です。「こんな力を付けたい、こんな姿になってほしい」と本時（本単元等）の目標を明確にもち、「その達成のために必要となる学びは何か」を考え、実践モデルプログラムから選び出して実践します。

授業の後には、「資質・能力の育成ができたか」と実践を振り返ること（リフレクション）が重要です。「育成できた」と判断したのであれば、「その要因はどこにあったのか」と更に分析します。「育成できたとまでは言えない」と判断したのであれば、「その原因は何か、どう改善すればよいか」と省察します。

また、他の教員と相互に授業を参観し、授業後に協議会を行うことも大変有効です。協議会を行う際には、「なぜあの場面で〇〇したのですか」等の授業者に対する批判や、「子供が一生懸命に取り組んでいて勉強になりました」等の無難な発言ではなく、「資質・能力の育成につながったか」という視点で、児童生徒の具体的な授業中の姿や発言等を基に、「私なら〇〇します、それは□□だからです」等の代案を示したり、「次の授業ではどうすればよいか」とお互いの意見を出し合い、明日からの授業を構想したりすることが、お互いの授業力向上につながります。



大切なことは、授業実践を振り返り、分かったことを次の授業づくりに生かすことです。こうした取組を「チーム学校」として、組織的・継続的に積み重ねることが、真の授業改善につながります。



【実践モデルプログラムを活用した授業における発問等の例】

*下の例を参考に、児童生徒の資質・能力の育成に向けた発問等を考え、書いてみましょう。



小学校・中学校・高等学校		
授業の前	<p>児童生徒に育成する資質・能力を明確にする</p> <p>「この学習を通して〇〇を育成したい」 「〇〇できる力を付けたい」</p> <p>資質・能力を身に付けた児童生徒の具体的な姿を描く</p> <p>「学習を終えた児童生徒は〇〇ができるようになるだろう」 「〇〇と考えることができるだろう」「〇〇に生かそうとするだろう」</p> <p>本時（本単元等）の目標を達成するための資料や教材等を準備する</p> <p>「この教材を用いれば、〇〇と考え、□□の力が付くだろう」 「児童生徒の〇〇という実態から、この資料を用いれば、□□できるようになるだろう」</p> <p>主発問や補助発問を準備し、発問に対する児童の反応を予想する</p> <p>「〇〇と問いかけたら、□□や◇◇と答えるだろう、△△と考えるかもしれない」 ※明確かつ計画的・意図的であり、資質・能力の育成に迫る発問を心掛けましょう。</p> <p>評価の手立てを準備する</p> <p>「児童生徒に資質・能力を育成できたかどうかは、〇〇で確認しよう」</p> <p>課題の解決のために、児童生徒が働かせるべき「見方・考え方」を理解する</p> <p>「課題の解決のためには、児童生徒が〇〇の視点や□□の考え方を働かせることが必要だ」</p> <p>板書を計画する</p> <p>「思考の過程が分かるような板書にするには、〇〇を意識して、□□は必ず書かなければ」</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> 児童生徒に育成する資質・能力や、資質・能力を身に付けた具体的な姿を書いてみましょう。</p> </div>	

	小学校低・中学年	小学校高学年・中学校・高等学校
見 い だ す	疑問をもつ	
	<p>「『あれっ？不思議だな』と思ったことは何ですか」</p> <p>「どうして〇〇になったのかな」</p> <p>「答えは〇〇だ！うんそうだ」 *意図的な失敗</p> <p>「うーん困った、どうしよう」 *意図的な困惑</p>	<p>「〇〇の原因はどこにあるのでしょうか」</p> <p>「規則性はありそうですか」</p> <p>「〇〇の視点から見るとどうなるでしょう」</p> <p>「日頃、『〇〇〇』と考えたことはありませんか」</p>
	既習の内容や方法を振り返る	
	<p>「ええと、前は…」 *既習の振り返りを促す</p> <p>「前回の学習と比べて、気付くことはありますか」</p>	<p>「前回使った考え方は何でしたか」</p> <p>「前回分かったことは、今回生かせそうですか」</p>
自 分 で 取 り 組 む	課題を明確にする (学習の見直しをもつ)	
	<p>「みんなの疑問を整理してみましよう」</p> <p>「さあ、今日はどんなことを学んでいきますか」</p> <p>「〇〇できるようになりましよう」 *資質・能力を共有</p>	<p>「この学習のゴールを〇〇としましよう！」</p> <p>「よし！今日の課題や目標は何にしましようか」</p> <p>「〇〇できるようになりましよう」 *資質・能力を共有</p>
	 考えた発問等を書いてみましよう。	
	解決の見直しをもつ	
自 分 で 取 り 組 む	<p>「どんな方法で考えていきましようか」</p> <p>「どんな結果になりそうですか」</p> <p>「これまでの学習内容で生かせることはありますか」</p>	<p>「必要な視点や考え方は何でましようか」</p> <p>「どんな仮説が立てられましようか」</p> <p>「解を予想してみましよう」</p>
	情報を収集し調べる	
	<p>「必要な情報は何か」</p> <p>「集めた情報を仲間分けしてみましよう」</p> <p>「情報からどんなことが分かりますか」</p>	<p>「集めた情報を精査してみましよう」</p> <p>「情報を〇〇の視点で見るとどうなるでましよう」</p> <p>「情報から読み取れることは何か」</p>
	自分の考えを形成する	
自 分 で 取 り 組 む	<p>「そう考えたのはどうして？教えてほしいな」</p> <p>「あなた考えを友達に知ってもらおう！どう表せばよいか」</p>	<p>「そう考えた理由や根拠は何か」</p> <p>「自分の考えを友達に理解してもらうには、どのように表せばいいですか」</p>
	思いや考えを基に創造する	
	<p>「あなたの今の思いや考えを、〇〇にしてみましよう」</p> <p>「思ったことや考えたことをどんな方法で表したいですか」</p>	<p>「その思いや考えを基に構想して、〇〇してみましよう」</p> <p>「思いや考えをより効果的に表現するために、工夫できることは何か」</p>
	 考えた発問等を書いてみましよう。	

	小学校低・中学年	小学校高学年・中学校・高等学校
広 げ 深 め る	自分の考えを伝える	
	「友達に分かってもらえるように〇〇に気を付けて伝えましょう」 「〇〇さんは□□さんとちょっと違う考え方をしてみたい、〇〇さん、教えてくれるかな」 「自分の考えと比べながら注意深く聞きましょう」	「〇〇を意識しながら伝えましょう」 「友達にあなたの考えを理解してもらうためには、どんなことを意識して伝えればよいですか」 「自分の考えと同じ点、違う点はどこかを意識しながら聞きましょう」
	友達と互いに学び合う	
	「友達の話聞いて『もっと知りたい!』とか、『どうして?』など感じたことを質問してみましょう」 「友達と一緒に考えて、みんなとしての考えをまとめましょう」	「友達の話聞いて、疑問点や納得できない点、もっと詳しく知りたい点を質問しましょう」 「友達と相談し、みんなが納得する結論を出してみましょう」
ま と め あ げ る	新たな考えに気付く	
	「初めて知ったことはありましたか」 「もし〇〇だったらどうなるのでしょうか」	「発見や考え方が変わったことはありましたか」 「条件や環境が変わったらどうなるのでしょうか」
	 考えた発問等を書いてみましょう。	
ま と め あ げ る	思考の過程を振り返る	
	「今日の学習では、どのように考えましたか」 「今日使った考え方の良いところはどこでしょう」	「今日の学習では、〇〇についてどんな視点から見ましたか」 「使った考え方は何でしたか」
	学んだことをまとめる	
	「自分の言葉で、〇〇に気を付けながら、□□のことについてまとめましょう」	「自分の言葉で、〇〇を意識し、□□の条件を踏まえながらまとめましょう」
ま と め あ げ る	学んだことを確実に身に付ける	
	「この問題だと、どのように考えますか、同じ考え方で解決できそうですか」 「今日使った考え方は、どんなところで使えそうですか」	「この条件下では、どのように考えればよいでしょうか」 「今日の視点や考え方を、これからどのように生かせそうですか」
	新たな疑問をもつ	
	「次の学習では、どんなことを知りたいですか」 「〇〇さんが教えてくれた『□□』という疑問が残っていますね」	「次の学習で明らかにしていくことは何でしょう」 「今日は〇〇の視点から考えましたね、『これで』と言い切れるのでしょうか」
 考えた発問等を書いてみましょう。		

5 実践モデルプログラムを活用した授業のためのチェックシート

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">授業の前に</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 本単元（本時等）を通して、資質・能力が育成された児童生徒の具体的な姿を、観点別の目標に基づいて描いている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の、発問に対する反応や課題に対する考えを予想している。 <input type="checkbox"/> 本単元（本時等）で資質・能力の育成ができたか評価する手立てを準備している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が働かせるべき「見方・考え方」を理解している。 <input type="checkbox"/> 「見方・考え方」を働かせた児童生徒の思考の過程が表れるような板書を計画している。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">見いだす</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 児童生徒が自ら疑問をもつことができるような資料や発問を準備している。 <input type="checkbox"/> 既習の内容や方法を振り返る場面を設定している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が課題を明確にすることができるように、疑問を整理して焦点化している。 <input type="checkbox"/> 本単元（本時等）の目標（めあて・ねらい）を児童生徒に明示している。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">自分で取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 児童生徒が解決の見通しをもつことができるように、学習のめあてや既習の内容との相違点等を児童生徒とともに確認している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が自ら情報を収集し調べることができるように、環境等を用意している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりする時間を確保している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が「見方・考え方」を働かせながら課題に取り組むことができるように、取り組むときの視点や思考の進め方を指導している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒一人一人の様子を把握し、早めに解決できた児童生徒や、つまづいてしまっている児童生徒に対する次の手立てを準備している。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">広げ深める</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 児童生徒が自分の考えを伝える場面を設定している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が「見方・考え方」を働かせながら、根拠とともに自分の考えを伝えることができるように指導している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が多様な考えを理解できるように、互いに学び合う場面を設定している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が友達の考えを聞き、疑問点を問い直すことができるように、自分の考えと比べながら聞くなど、聞き方の指導をしている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が新たな考えに気付くことができたか確認し、自分の考えや学びを修正することができるように、個に応じた助言をしている。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめあげる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 児童生徒が板書やノート、作品等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場面を設定している。 <input type="checkbox"/> 「深い学び」につながる本単元（本時等）のまとめを、児童生徒の言葉で予想・準備し、書く時間を確保している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が学んだことを確実に身に付け、「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすか考える場面を設定している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が新たな疑問をもつことができるような発問を準備している。

* 上記の項目は、毎時間（もしくは毎単元）全ての項目を達成することを推奨するものではありません。
授業改善の視点として、指導案の作成や校内研修等で御活用ください。

6 実践モデルプログラムを活用した授業づくりシート

*日々の授業づくりに活用ください。

育成する資質・能力

児童生徒が働かせる見方・考え方

児童生徒の反応・考え・発言など

The central part of the sheet consists of four colored quadrants arranged in a 2x2 grid. Each quadrant contains a pink silhouette of a person's head and shoulders. Surrounding each silhouette are four empty speech bubbles, two on the left and two on the right. A central circular arrow, divided into four colored segments (blue, yellow, green, cyan), indicates a clockwise flow from the top-left quadrant to the top-right, then to the bottom-right, then to the bottom-left, and finally back to the top-left.

リフレクション

次の授業へ向けて…